

旭化成ファーマ株式会社

AsahiKASEI

昨日まで世界になかったもの

旭化成ファーマは、創薬や技術研究のフィールドで、世界の”人びとの” ”いのち” と”暮らし” により広く、深く貢献したいと考えております。弊社は、国内外からの導入や提携を推進・強化をするために、前臨床段階までの新薬候補化合物や、創薬に関する最先端技術の導入、提携および共同研究などのオープンイノベーション活動を推進しています。

この度、国内の大学や研究機関、企業を対象として創薬に関する研究の公募を実施しますのでお知らせします。2021年1月7日14:00(日本標準時)～2021年2月9日17:00(日本標準時)を公募期間としております。詳細は下記の当社ウェブサイトをご覧ください。

<旭化成ファーマオープンイノベーション・公募サイト>

<https://www.asahikasei-pharma.co.jp/a-compass/jp/>

皆様のご応募をお待ち申し上げます。

旭化成ファーマが求める公募テーマ概要

- 旭化成ファーマの注力領域における新規創薬シーズ（新規創薬標的分子または医薬品候補物質）
 - 神経変性疾患領域
 - 自己免疫疾患領域
 - 救急領域
 - 骨・軟骨領域
 - 筋疾患領域

各公募テーマの詳細な内容については、次ページ以降に記載しております。

お問い合わせ先：上記 HP の「お問い合わせ」よりご連絡ください。

旭化成ファーマ注力領域における新規創薬シーズ

＜神経変性疾患領域＞

1 神経変性疾患治療における新規創薬標的分子、又は医薬品候補物質

- ・ 対象疾患：日本国内で難病指定を受けている、若しくは米国で rare disease とされているものが望ましい（アルツハイマー病およびパーキンソン病等の大規模臨床試験を伴う神経変性疾患は除外対象とする）
- ・ 医薬品候補物質（低分子化合物・ペプチド・抗体・タンパク質、核酸等）があるものを優先する
- ・ 臨床試験以前の段階にあること
- ・ ヒト外挿性の高い病態モデル動物、又はヒト細胞を用いた薬効データが取得されていることが望ましい

＜自己免疫疾患＞

2 自己免疫疾患治療における新規創薬標的分子、又は医薬品候補物質、あるいはコンセプト・アイデア

- ・ 対象疾患：難病もしくは難治性の自己免疫疾患（全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、強皮症など）
- ・ 医薬品候補物質（低分子化合物・ペプチド・抗体・タンパク質、核酸等）があるものを優先する
- ・ 臨床試験以前の段階にあること
- ・ 標的分子及び作用機序が解明済みであることが望ましい
- ・ 病態モデル動物において薬効データが取得されていることが望ましい
- ・ 既存療法および先行開発品に対する優位性が期待できるデータもしくはアイデアを有することが望ましい

＜救急領域＞

3 救急領域における新規創薬標的分子、又は医薬品候補物質

- ・ 対象疾患：急性呼吸窮迫症候群（ARDS）、重症感染症（菌血症、感染性心内膜炎、肺炎）、急性腎障害（AKI）
- ・ 遺伝子治療、細胞治療、治療デバイスは対象外とする
- ・ 臨床試験以前の段階にあること
- ・ 薬効や作用機序を裏付けるデータ、想定する薬剤のポジショニングや特長を示すデータを有すること
- ・ in vivo データ（薬効、代謝安定性、毒性）を有することが望ましい

<骨・軟骨領域>

4.1 骨系統の難病・希少疾患における医薬品候補物質

- ・ 対象疾患：後縦靭帯骨化症 (OPLL) や進行性骨化性線維異形成症 (FOP) など骨系統の難病
- ・ Lead to Candidate ステージ～Preclinical ステージを対象とする（ドラッグリポジショニングも対象とする）
- ・ in vivo もしくは in vitro で薬効データが取得されていること

4.2 軟骨の難病・希少疾患における医薬品候補物質

- ・ 対象疾患：軟骨無形成症など軟骨の難病・希少疾患（軟骨低形成症、軟骨胃栄養症を含む）
- ・ Lead to Candidate ステージ～Preclinical ステージを対象とする（ドラッグリポジショニングも対象とする）
- ・ 新規の創薬ターゲットであること
- ・ in vitro での薬効が示されており、in vivo でも薬効データが取得されているか、強く示唆されていること

4.3 関節軟骨の損傷・変性治療に対する医薬品候補物質

- ・ 対象疾患：関節軟骨の損傷・変性
- ・ Lead to Candidate ステージ～Preclinical ステージを対象とする（ドラッグリポジショニングも対象とする）
- ・ 細胞治療またはマイクロフラクチャー等の外科処置の効果を高める医薬品・医療材料等があれば望ましい
- ・ 局所投与できること
- ・ in vivo で安全性、体内動態および有効性が示唆されていること

<筋疾患領域>

5. 筋疾患治療における新規創薬標的分子、又は医薬品候補物質

- ・ 対象疾患：癌性悪液質、廃用性筋萎縮、サルコペニア、筋ジストロフィーなど
- ・ 医薬品候補物質（低分子化合物・ペプチド・抗体・タンパク質、核酸等）があるものを優先する
- ・ 臨床試験以前の段階にあること
- ・ ヒト外挿性の高い病態モデル動物、又はヒト細胞を用いた薬効データが取得されていることが望ましい
- ・ 標的臓器は筋肉に限らない。全身あるいは筋肉以外の組織に作用し、副次的であっても筋肉に作用することで筋疾患治療薬になり得る標的分子は評価の対象とする。ただし、癌性悪液質に対する抗がん剤治療は除く
- ・ 作用メカニズムが運動、ミトコンドリア、NAD/Sirtuin シグナル、老化・寿命制御のいずれかに関連しているものが望ましい
- ・ 癌性悪液質に対する抗がん剤治療は対象としない